

2016年10月9日

乗務員の勤務制度の見直しの検索がされようとしている中で、各地区本部に対する東会議が開催されました。各地区本部とも多くの組合員の出席があり、又まさに労働強化・人員削減の合理化に繋がる今回の改正は、国労として又青年労働者の為にも認められないとの多くの声が出来ました。この間もワンマン運転の拡大や客室乗務員の廃止、無人駅の増大によって労働強化が進められました。このままで安全・安定輸送が

がされてしまいました。今回
の改正提案は9月25の考え方
では、労働時間Bの削減
や安全のための車両の点検時
間の見直し、早め出場時間
の短縮など作業時間の短縮
で業務時間の大幅な增加に
なると考えられます。労働
時間Bが削減された場合に
は現在の労働時間内で、博
多→長崎間を追加で2往復
乗務する時間が、作られま
す。現在一番多くのB時間
がついている仕事・文書で
組合員に説明する事が重要
だと考えます。その他にも
超勤前提で労働時間が設定
されようとしています。世
の中の流れは時短へ向かっ
ている中、時代に逆行した
考え方であり、乗務員を効
率よく働かせる事にしかな
らないのではないでしょう
か?高齢者に優しい行路の

時短に逆行した超勤前提の勤務制度は認められない

は休日摺や平均労働時間の大軒な短縮を求めていきます。今回の改正では会社にメリットはあるが、業務面にはデメリットしかない事は明白です。国労は職場の声を丁寧に拾い上げ65歳まで健康で安心して働き続けられる職場環境を作りたいとおもいます。

乗務員勤務制度の見直しについて

策定も言つてい
ますか、労働時
間は同じであります
が、何が優しいのか
疑問です、回答

「生きる」を創る、Affac

「がん」の課題 (発生するためのがん問題 Days)

www.scholarlypublishing.org/journals/submit-a-manuscript